

学校長



横浜 f カレッジ

令和 5 年度学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員会実施要領

| | | | | | |
|-----|---------------------------------|--------|--|--|--|
| 日 時 | 令和 6 年 7 月 22 日 (月) 10:00~11:20 | | | | |
| 場 所 | Zoom を利用したオンライン開催 | | | | |
| 出席者 | 学校関係者評価委員 | 井上 弥生 | 花王株式会社 化粧品 BRC センター長 | | |
| | | 木内 潤一 | 株式会社 TFL 学校長 | | |
| | | 夏目 哲宏 | 株式会社 ブライト 代表取締役 | | |
| | | 望月 大作 | 株式会社 ウィゴー 取締役 WEGO 事業部 商品部門 副事業部長 (欠席) | | |
| | | 吉原 直樹 | 株式会社 アルテ ジェネシス 代表取締役会長 CEO | | |
| | 教職員 | 岩崎 有紀子 | 横浜 f カレッジ 学校長 | | |
| | | 小松 加代子 | 横浜 f カレッジ グループ長 | | |
| | | 角館 裕美 | 横浜 f カレッジ 教務チーム グループリーダー | | |
| | | 多賀 智章 | 横浜 f カレッジ 経営管理チーム サブリーダー | | |
| | | 別所 慶子 | 横浜 f カレッジ 教務チーム 課長補佐 | | |
| | | 佐々木 睦美 | 横浜 f カレッジ 教務チーム 課長補佐 | | |
| | | 三船 澄人 | 横浜 f カレッジ 教務チーム 主任 | | |
| | | 前川 竜也 | 横浜 f カレッジ 教務チーム 主任 (議事録) | | |
| | | 末次 友香 | 横浜 f カレッジ 教務チーム 副主任 | | |
| | | 中澤 宏将 | 横浜 f カレッジ 教務チーム 副主任 | | |
| | | 資 料 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度自己点検評価表 ・令和 5 年度自己点検評価報告書 | | |

2. 自己点検評価報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は明確か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | <ul style="list-style-type: none"> ・本学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。 ・岩崎学園 100 周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト（広報統括委員・IR 推進委員・国家試験対策・キャリア開発推進・教育環境整備等）が活動している。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・美容業界は大きな世代交代の時期を迎えており、若手の経営者に注目が集まっている。今後はデジタルツールを上手く活用していくスキルが求められるため、学校教育の中にもぜひ取り入れ、デジタルスキルを持った優秀な人材の育成を期待する。 ・ファッション業界において、デジタル化の流れが加速しており、一方で、EU 加盟国においてエコデザイン規則案が批准されたことで、今まで以上に本質的な手の技術も重要となり、デジタル+アナログのハイブリット型人材が求められる。 ・ブライダル業界では、コロナ禍を経て従来の結婚式にとられない形態や、多様性を理解した上でのウエディングなど新たなサービスや商品が生まれており、時代の変化に対応できる人材が求められている。 |

2-2. 学校運営

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務効率化が図られているか | <p>＜運営方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学園理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し教育活動を行った。 ・リーダーを軸に、効率的な学科運営を行う目的で昨年設置した学科別の業務グループについては、学校目標からブレイクダウンされたグループ目標が明確化され、組織的に業務遂行が行える体制となった。また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。 | <p>＜運営方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

| | | |
|--|--|--|
| | <p><視聴覚教材システムの導入と業務の効率化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年ビューティースタylist科で先行導入した Swipe Video (自由視点映像ソリューション) については、卒業生協力のもとコンテンツを 10 以上増やす事ができ、引き続き美容師国家試験の実技対策を実施。校務負担軽減ならびに業務効率化のため、年間スケジュールの策定によるタスク集中時期の明確化、標準化に着手した。 <p><働き方、健康管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集活動に係る休日出勤については、引き続き、振替休暇の取得がしやすいよう半日勤務を推奨。学内に衛生委員を置き、学園本部と連携しながら教職員の健康管理、校内環境、教室環境の改善に努めている。 | <p><視聴覚教材システムの導入と業務の効率化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期人材育成システムの一環として、デジタルコンテンツを使用するのは効率的な学びに繋がり良い取り組み。学ぶ世代に合った教育システムを取り入れていくことは、業界としても求められていくことであり評価できる。 <p><働き方、健康管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |
|--|--|--|

2-3. 教育活動

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか | <p><教育課程の編成・実施方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。 ・年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。 | <p><教育課程の編成・実施方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧品業界でもDX化は進んでおり、デジタル戦略や市場の変化に柔軟に対応できる人材が求められている。特に共創型のマーケティングを推進して行く上で、単にツールを使いこなすという事よりも、何を発信していくべきかという視点を持った、創造性の高い人材がより求められているのが現状。自らクリエーションできる人材の育成を期待する。 ・若い世代の価値観が変化している中、従来の形式に捉われず、顧客のニーズを的確に察知し、新しいアイデアやサービスを提案できる人材が求められている。発想力、提案力を養うようなカリキュラムの導入を検討しても良いのではないかと。 ・ファッションはメインストリームのカルチャーに対してのアンチテーゼや、その時代への反抗が根底にある。コンサバティブにならず、学生の豊かな感性を伸ばせる |

- ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか
- ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか
- ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
- ・職員の能力開発のための研修等が行われているか

<オンライン授業の推進>

・令和3年より導入したスタログ（LMS）の活用方法が成熟され、授業毎の確認テスト（小テスト）による理解度の促進や、反復し習熟度を高める検定対策に効果を発揮した。コロナ禍前の状況に戻りつつあるが、授業運営の効率化を図るためオンラインでも十分に教育効果が得られるものについては、引き続きオンライン授業を実施する。

<令和6年度に向けた、学科カリキュラムのブラッシュアップ>

・令和6年度の展開に向け、①学生に分かりやすく ②時代の変化の中でも通用する ③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムのブラッシュアップに着手。また、最新の技術やトレンドを十分に盛り込み実践的な授業が展開できるよう、教職員の外部研修も推奨している。

環境を整えることは将来にとって必要と考える。

- ・美容業界においては、早期人材育成が課題であり急務である。スタイリストになるまでに長期間を費やすとなると未来が描きづらい。美容業界には未来がない、夢が描けないと感じさせてしまわないように、学生に現状を伝えることと、学校として早期人材育成をしている就職先の開拓を行うことが必要である。
- ・ファッション業界においては、ブランド名が無くても、作り手と買い手の信頼関係やコミュニケーションが取れていれば商売が成立する時代になった。学校としてオリジナルのファッションブランドを展開し、実際に売り上げを出すような仕組みを構築しても良いのではないか。

<オンライン授業の推進>

・コロナ禍以降、化粧品のオンラインイベントも盛んに行われている。インフルエンサーのように商品を魅力的に発信する力も必要である。

<令和6年度に向けた、学科カリキュラムのブラッシュアップ>

・特になし

| | | |
|--|---|--|
| | <p><産学連携・インターンシップの体系化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5類になった事を受け、対面での活動も活発化した。コロナ前より継続的に実施してきた産学連携やインターンシップも多数あり、学生には実践的な学びの場となった。 <p>■以下連携事例について詳細を報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業提示の課題による産学連携 <ul style="list-style-type: none"> －横浜高島屋とアーリーマウンテンワークスとの連携による、レザーアイテムの商品開発に取り組み、2点が商品化され店頭にて販売となった。 －横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ・ユニフォームメーカーとの連携により、新ユニフォームの製作を実施。R6年4月より着用開始となる。 －企業との協業による結婚式プロデュース ・現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み <ul style="list-style-type: none"> －乳がん早期発見・早期治療啓発イベントにてサコッシュ作りのワークショップ開催 －SDGsの観点からリメイク・アップサイクル商品の展示販売を実施 ・企業によるイベント協力等での地域振興への協力 <ul style="list-style-type: none"> －地元スポーツチームの試合時の応援イベント支援 | <p><産学連携・インターンシップの体系化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3Dモデリストという職種単体で稼働している会社は少ない。インターンシップを検討しているのであれば、アパレル生業ではなく、スポーツメーカーなど、新規参入でアパレル商材を取り扱っている所であれば活路を見いだせるのではないか。 |
|--|---|--|

2-4. 環境

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | <p><施設・設備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、すべての学科で学生にノート PC を貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを3台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。他に、アパレル業界のDXに対応し、3Dモデリング技術が学べる環境を整備した。 | <p><施設・設備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

2-5. 学習成果

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | <p>＜内部特待生制度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部特待生制度」が導入され、令和5年度は13名の内部特待生を選出した。 ・内部特待生は、本学園姉妹校の学生が横断的に参加するアイデアソンなどのプログラムに参加し知見を広めるとともに、学校情報の発信に寄与。また、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。 <p>■就職実績・資格取得・コンテストについて詳細を報告</p> <p>＜就職実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に対する支援は、岩崎学園全体の就職情報を統括的に管理する部門と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。令和5年度も、前年度に引き続きコロナ禍による影響がある中、粘り強く就職活動を実施した。 <p>【令和5年度就職実績】</p> <p>ー就職率：98.6%（就職希望者295名、就職者291名）</p> <p>※ブライダル科・ファッションライフデザイン学科においては100%</p> <p>＜資格取得・コンテスト＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。 | <p>＜内部特待生制度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>＜就職実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アパレル業界では、採用時にSNSの状況提示をマストにしており、自己表現に長けている人材を採用している。一方で既存の社員は不得手な者もいるため、世代を超えたコミュニケーションによって底上げをしている。 ・ファッションを仕事にしようという若い世代が徐々に減っている中、ファッションライフデザイン学科就職率100%の成果は素晴らしい。業界としては、画一的なファッションに偏り若い世代が興味を失いつつある。コロナ明け、求人数は増えているものの、魅力あるファッションアパレル業界が見えにくくなっているところは産業側の構造の問題と認識している。 ・fカレッジは関東圏のブライダル業界では絶大なブランド力があり、不思議な一体感もある。卒業生による横の繋がりも大きく、そういった利点を理解することで心強く社会に出られるのではないかと。 <p>＜資格取得・コンテスト＞</p> <p>特になし</p> |

| | | |
|--|--|---------------------------------------|
| | <p>①美容師国家試験合格率 89%。 ②ブライダル科では、ブライダルコーディネーター技能検定 3 級の合格率 97%。また難易度の高い 2 級合格者の合格率 100%。 ③ファッションライフデザイン学科では、ファッション 3D モデリスト検定 2 級を受験し合格率 100%</p> <p><退学者> ・退学率 13. 2% (前年 12. 7%)</p> | <p><退学者> ・特になし</p> |
|--|--|---------------------------------------|

2-6. 学生支援

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか ・防災に対する体制は整備されているか | <p><学生相談> ・状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間で対応をしている。</p> <p><経済的な支援> ・令和 2 年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。 ・給付型、貸与型と様々な支援策があり、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。</p> <p><保護者との連携> ・前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて通知している。また、入学ガイダンスやビューティースタylist科、ビューティコーディネーター科の保護者会、学校行事の様子などをオンラインにて配信した。</p> <p><防災体制> ・激甚災害行動マニュアルを策定し運用。 ・Slack を活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。</p> | <p><学生相談> ・特になし</p> <p><経済的な支援> ・特になし</p> <p><保護者との連携> ・特になし</p> <p><防災体制> ・特になし</p> |

2-7. 学生の受け入れ募集

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか | <p>■学生募集活動について以下詳細の報告。 令和5年度の入学者は436名（前年：454名） 前年度に引き続き、対面とオンラインのオープンキャンパスを併用しながら学生募集活動を展開。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

2-8. 財務

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか | <ul style="list-style-type: none"> ・財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

2-9. 法令順守

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県からの認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。 ・個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。 ・平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴収した。また、議事録をホームページ上で公開した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

2-10. 社会貢献・地域貢献

| 学校が設定する評価項目 | 自己点検評価の概要 | 学校関係者評価委員からの評価・意見 |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | <p><学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。に学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。 <p><地域に対する公開講座・教育訓練の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生向けキャリア講座（仕事の学び場（4講座130名）総専協夏期講座（2講座33名））の受入れについて、コロナ感染対策を施し全て開催した。 | <p><学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業し現場で経験を積んだ後に自分がやってみたかったデザインや、興味があったビジネスについて再度勉強できる教育環境（リカレント・社会人大学院など）があっても良いのではないかと。 ・留学生などグローバル人材の受け入れを検討しても良いのではないかと。 <p><地域に対する公開講座・教育訓練の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

以上

| 教務部長 | 作成者 |
|--|--|
|  <p>小 06/09/05 松</p> |  <p>角 06/09/05 館</p> |